

避難するときは？

避難前の心構えを！

●気象台が発表する「台風情報」、「警報・注意報」などに気をつけましょう！

・気象台では、台風の影響が考えられる場合や雨などにより重大な被害が発生する恐れがあるときは、「台風情報」「警報・注意報」を発表します。テレビやラジオから最新の情報を入手してください。



●危険な場所に近づかない

・雨で増水した小川や側溝は境界が見えにくくなり、転落事故が発生します。また、山崩れ・がけ崩れも起こりやすくなります。日頃は安全と思われている場所でも油断せず、これらの場所にはむやみに近づかないようにしましょう。

●非常用品の点検

・非常用持ち出し品の点検をしましょう。例えば、赤ちゃんのいる家庭では粉ミルクとお湯を忘れないように準備しましょう。



●避難の準備

・避難情報が出てからあわてないように、避難場所までの道順や避難情報の伝達方法、隣近所との協力体制などについて、再度確認しましょう。

●災害発生の危険が迫ってきたら…

・藤枝市長は、災害の危険が迫った地域の住民に対して「避難指示」等の発令を行います。これらの指示は、防災無線・広報車などによって伝えられます。



・危険を感じたり、市区町村長からの避難情報があった場合は、すぐにその指示に従えるよう準備し、あわてず速やかに避難しましょう。

・避難の前には、必ず火の始末をしましょう。

・避難の際の持ち物は最小限にして、背中に背負うなど、とっさのとき両手が自由に使えるようにしておきましょう。また、指導者の指示に従って、慎重行動しましょう。



・忘れ物をしたからといって、取りに戻るの危険です。

冊子「大雨や台風へ備えて」(気象庁) から引用

避難する時は！

●避難する時はひもで締められる運動靴で、長靴は中に水が入り、かえって動きにくくなります。



●はぐれないよう、互いの身体をロープで結んで避難しましょう。子どもからは絶対に目を離さないように。



●歩ける深さは、男性で 70 cm、女性で 50 cm が限界です。また流速がある場合、足のくるぶし以上の水量があると、流されるおそれがあり危険です。

無理をせず、高所で救助を待ちましょう。

●互いの手をつなぐのは、行動の自由を奪うことにもつながります。非常持ち出し品などはできるだけ背負うようにして、手を自由におきます。

●水面下には、ふたの脱落したマンホール、側溝、段差など危険が多いので、長い棒を杖がわりにして、安全を確保しながら歩きます。

●高齢者や身体の不自由な人は背負います。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスなどを利用して、安全を確保します。

冊子「防災・減災お役立ちガイド～風水害編～」(愛知県防災局) から引用

避難先では！

●勝手な判断や行動をせず、指導者の指示に従いましょう。

●引き続き「台風に関する情報」、「警報・注意報」などの情報に注意して、最新の情報を入手しましょう。

水平避難と垂直避難について

避難する時間がない場合、周囲の状況により、避難場所までの移動(水平避難)が危険な状態*になった場合には、命を守る最低限の行動として、洪水では、自宅や隣接建物の2階等へ、土砂災害では、周囲の建物より比較的高い鉄筋コンクリート等の堅固な建物の2階以上で、斜面と反対側の部屋に緊急的に避難(垂直避難)するなどの行動をとりましょう。

垂直避難にあたっては、ハザードマップ(土砂災害・洪水)から自宅周辺の状況(浸水深さ、土砂災害の危険性)を確認するなど、日頃から有事の際における行動を決めておくことが大切です。

※避難場所までの移動(水平避難)が危険な状態とは？

・夜間や激しい雨により避難経路上の危険箇所がわかりにくい
・浸水は 20cm 程度でも水の流れが速い

・50cm 以上(ひざ上程度)まで浸水している
・浸水は 10cm 程度でも用水路の位置がわかりにくく転落の危険性がある

引用資料 気象庁「大雨や台風へ備えて」、「特別警報」

愛知県防災安全局防災危機管理課「防災・減災お役立ちガイド～風水害編～」

画像提供 内閣府、気象庁静岡地方気象台、国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所

静岡県交通基盤部河川砂防局土木防災課・砂防課、愛知県防災安全局防災危機管理課、NHK静岡放送局

お問い合わせ 藤枝市役所 〒426-8722 静岡県藤枝市岡出山1丁目11-1
都市建設部 基盤整備局 河川課 TEL 054-643-3516 E-mail kasen@city.fujieda.lg.jp
総務部 危機管理センター 大規模災害対策課
TEL 054-643-3119 E-mail saigai@city.fujieda.lg.jp